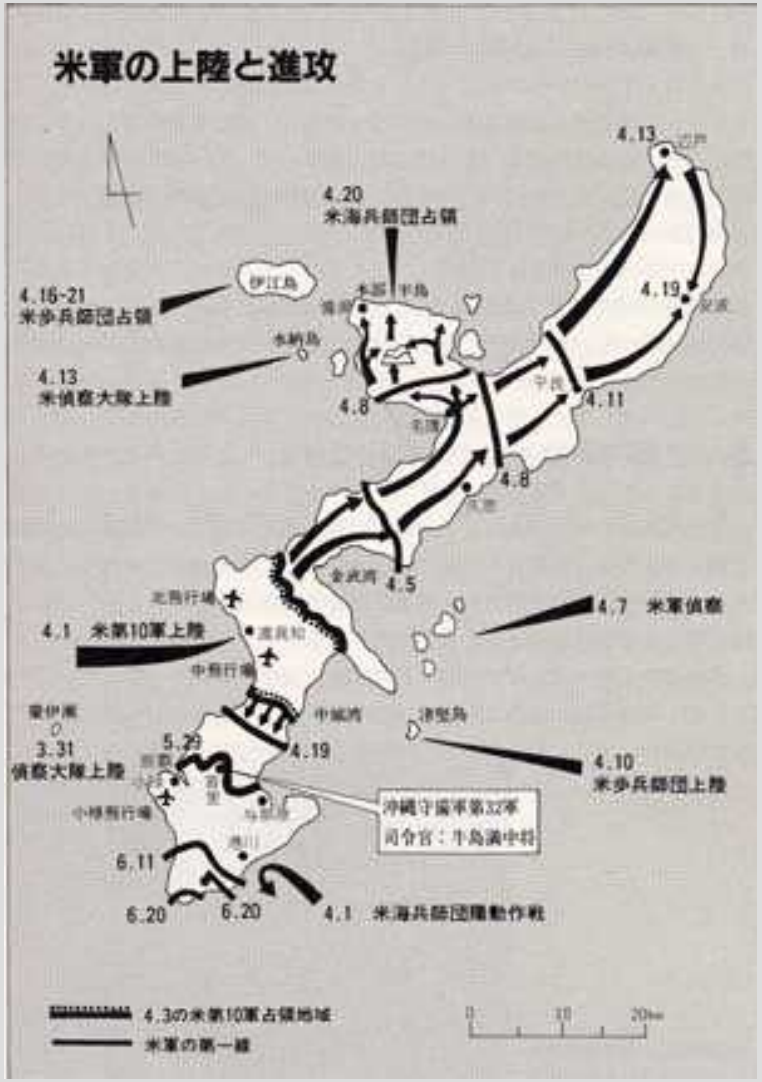
～沖縄からグアムへの海兵隊移転と普天間飛行場の危険性除去～

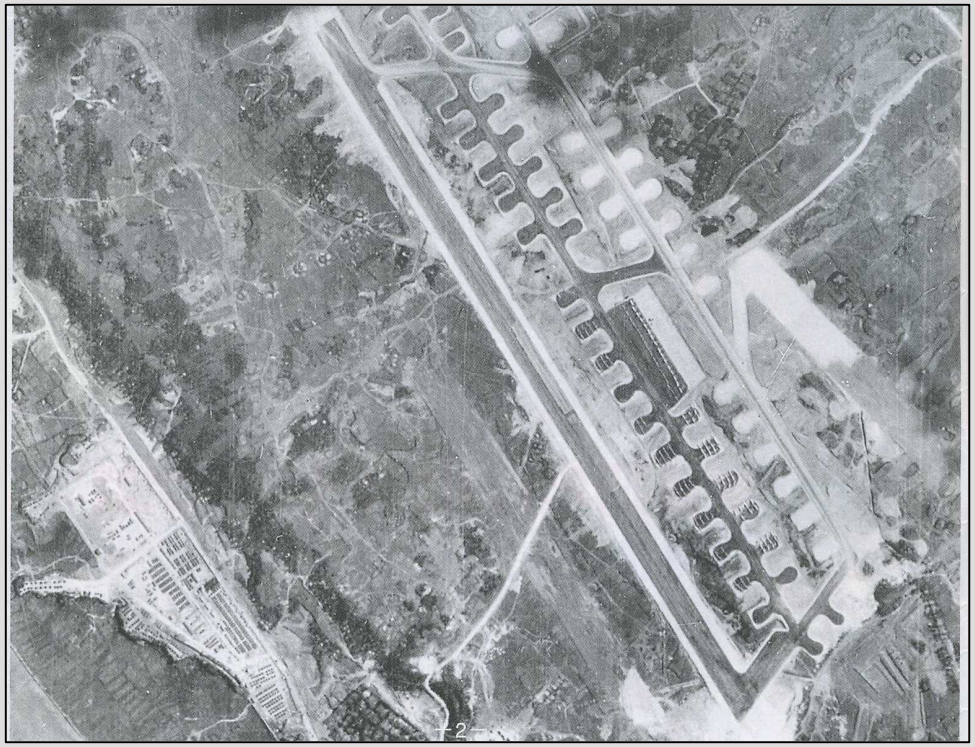
普天間飛行場の危険性除去について

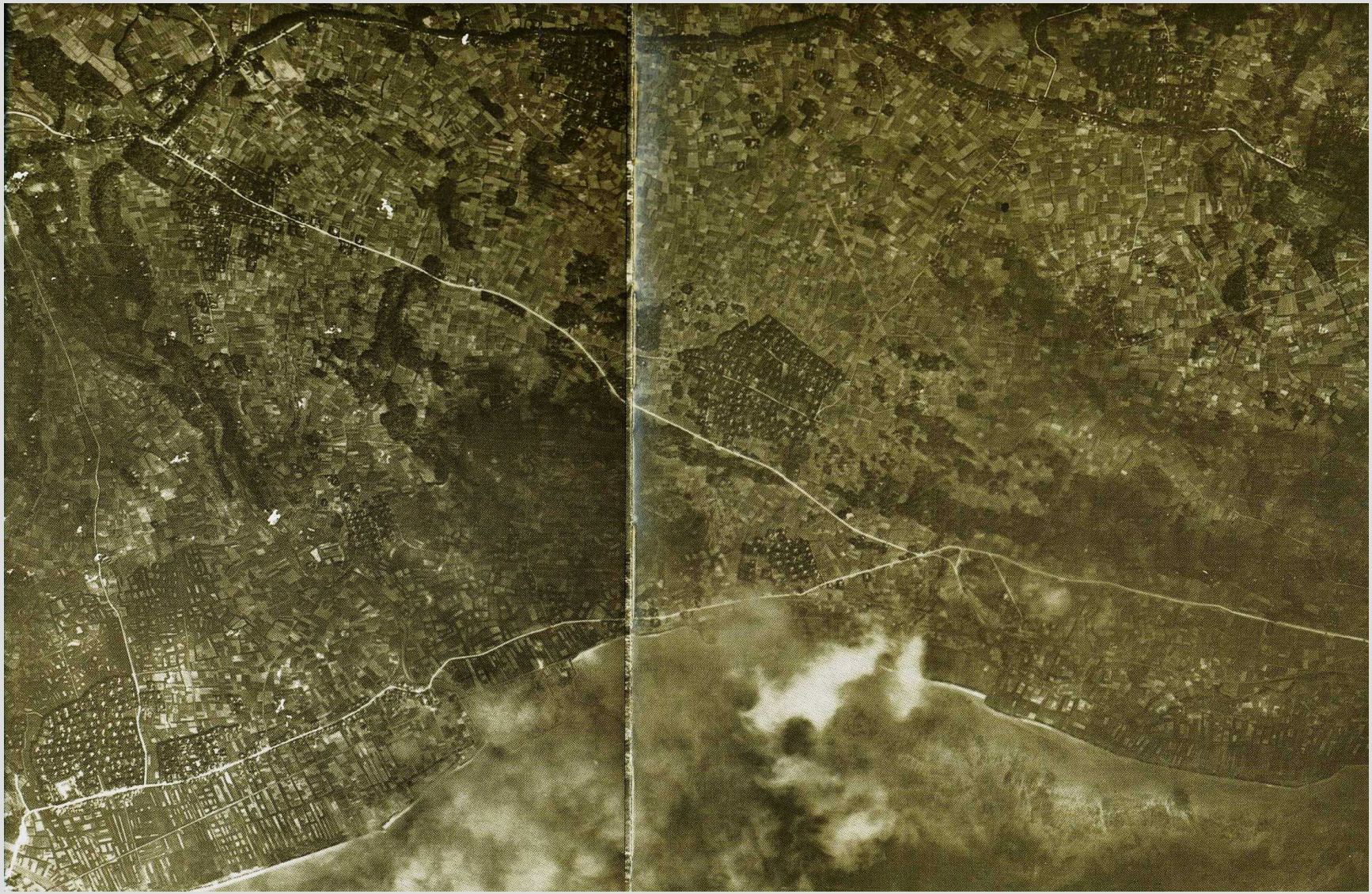
宜野湾市長　伊波　洋一

◆普天間飛行場の成り立ち

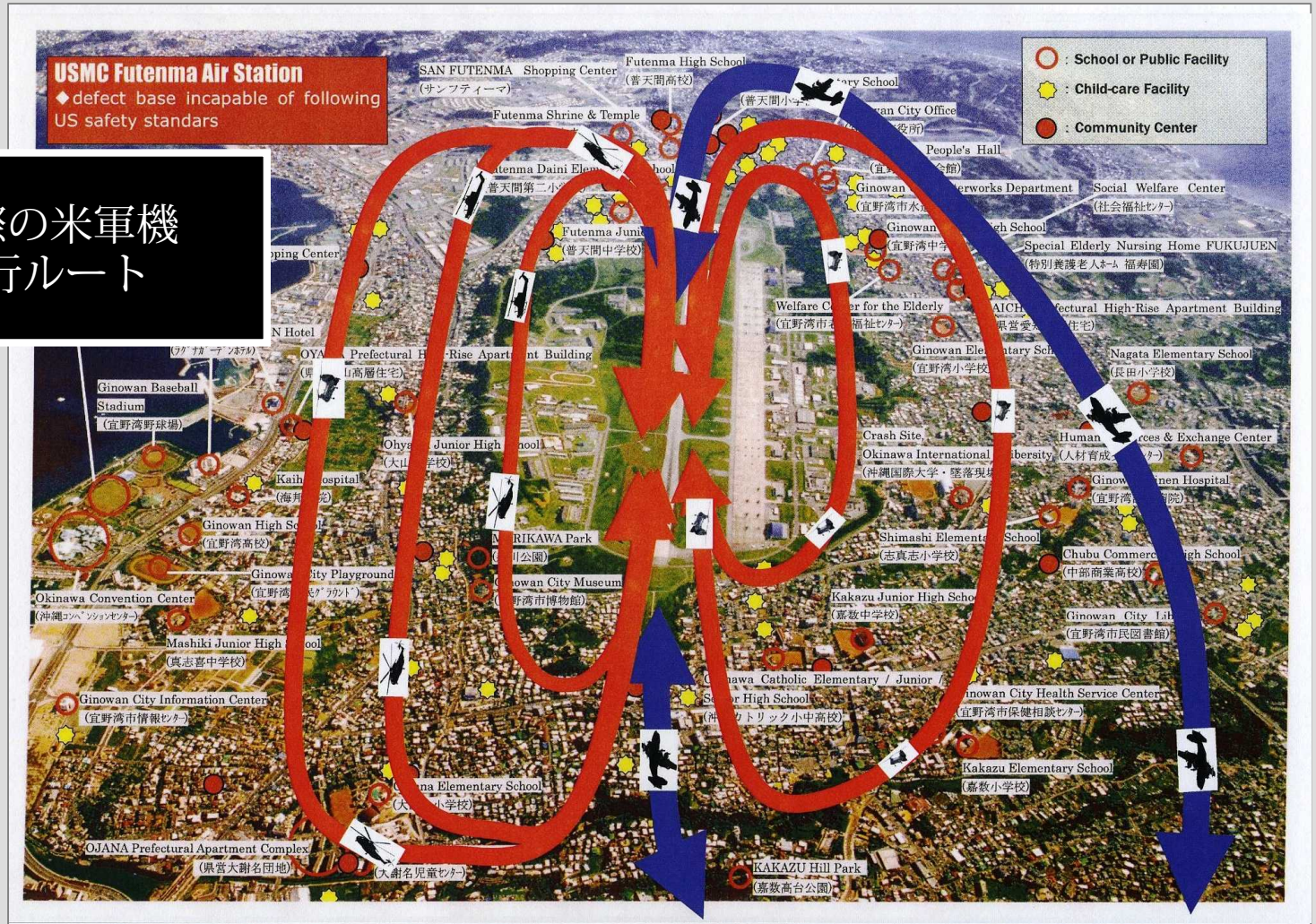


◆普天間飛行場の成り立ち





Under heavily crowded conditions, 90,000 Ginowan residents'homes and over 121 public facilities are located around USMC Futenma Air Station.



実際の米軍機
飛行ルート

Under heavily crowded conditions, 90,000 Ginowan residents'homes and over 121 public facilities are located around USMC Futenma Air Station.

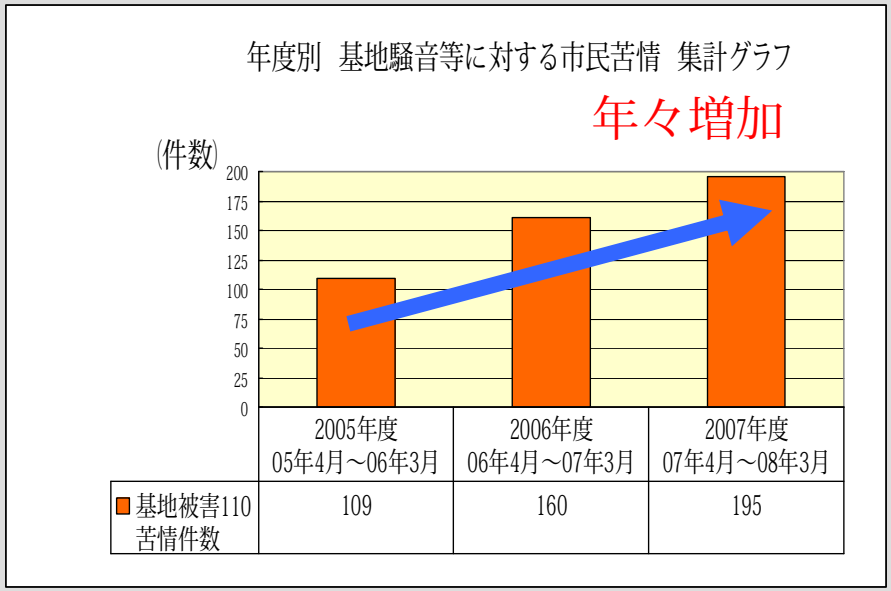
１．２００４年８月１３日
沖縄国際大学への米軍CH-53D型ヘリ墜落事故発生

2004年**8**月**13**日
沖縄国際大学への米軍**CH-53D**ヘリ墜落事故は宜野湾市民にとって基地が隣接するが故の危険性を証明することになり、普天間飛行場の運用の停止・早期の返還を求めている

２．普天間飛行場から派生する市民生活への被害実態

宜野湾市住宅地上空を旋回するCH-46ヘリ

普天間第二小学校上空を飛行する米軍機



市に寄せられた基地被害110番の声

[例]

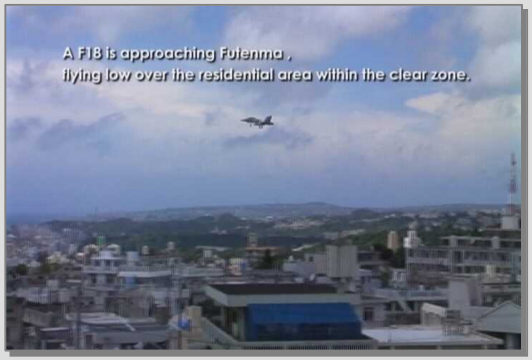
■ヘリコプターが5分おきに自宅を通過する

■夜中の1:30ですが、米軍機がうるさい。

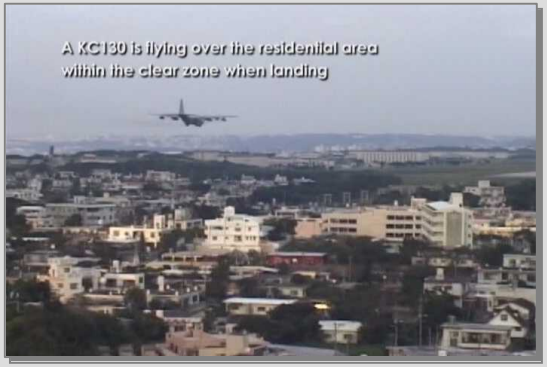
■子どもがミルクも飲まないし、寝付かない。

■また墜落するのではないかと思った。

３．市街地に隣接する普天間飛行場での米軍機訓練の増加

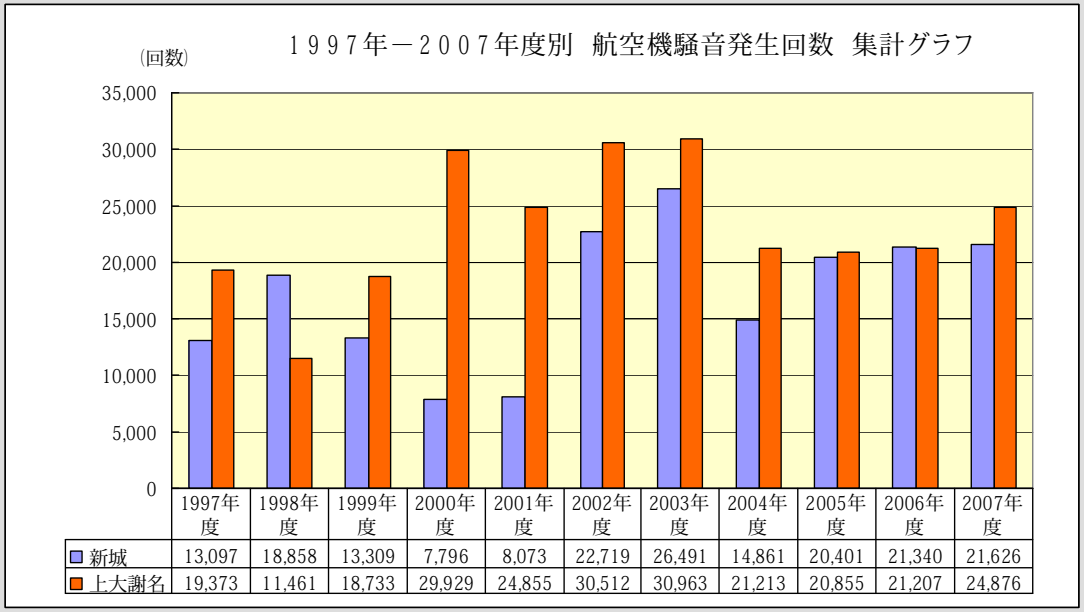


住宅地上空を飛行するF18戦闘機



住宅地域を低空で着陸する
KC-130空中給油機

病院上空も飛行するCH-46ヘリ



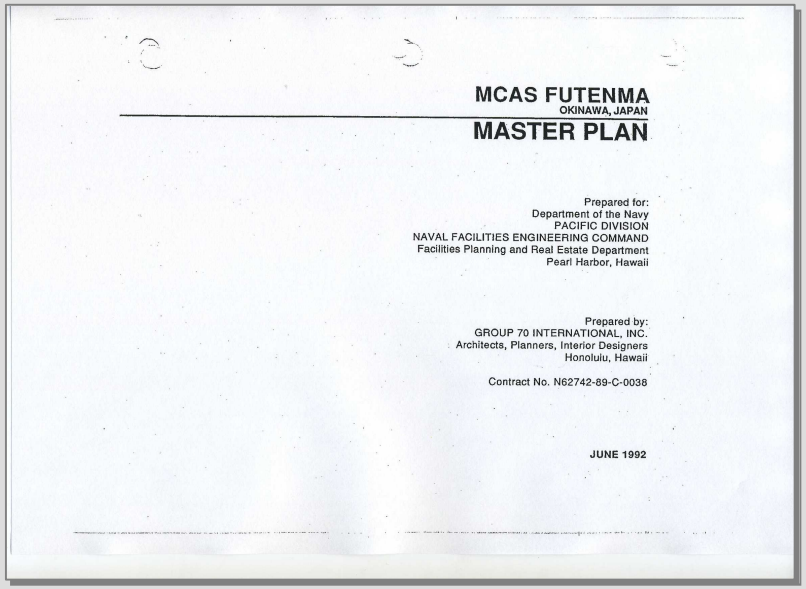
	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
新城	13,097	18,858	13,309	7,796	8,073	22,719	26,491	14,861	20,401	21,340	21,626
上大謝名	19,373	11,461	18,733	29,929	24,855	30,512	30,963	21,213	20,855	21,207	24,876

住宅地上空を6機編隊飛行するするCH-46ヘリ

4．宜野湾市の調査で明らかになった普天間飛行場クリアゾーン ～住民地域を最も危険なクリアゾーンに設定～

MCAS FUTENMA MASTER PLAN JUNE 1992

普天間飛行場のクリアゾーンは、滑走路中心線の両側と、滑走路両端から伸びる部分に設定されており、障害物を排除し離発着の際の安全を確保するためのエリアである



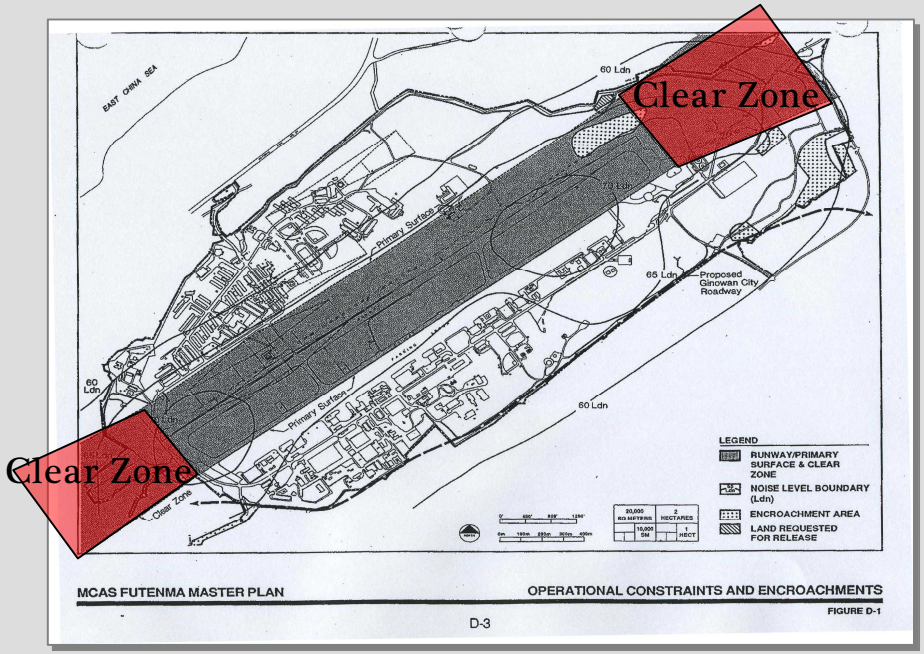
MCAS FUTENMA
OKINAWA, JAPAN
MASTER PLAN

Prepared for:
Department of the Navy
PACIFIC DIVISION
NAVAL FACILITIES ENGINEERING COMMAND
Facilities Planning and Real Estate Department
Pearl Harbor, Hawaii

Prepared by:
GROUP 70 INTERNATIONAL, INC.
Architects, Planners, Interior Designers
Honolulu, Hawaii

Contract No. N62742-89-C-0038

JUNE 1992



隠されていた
クリアゾーン設定

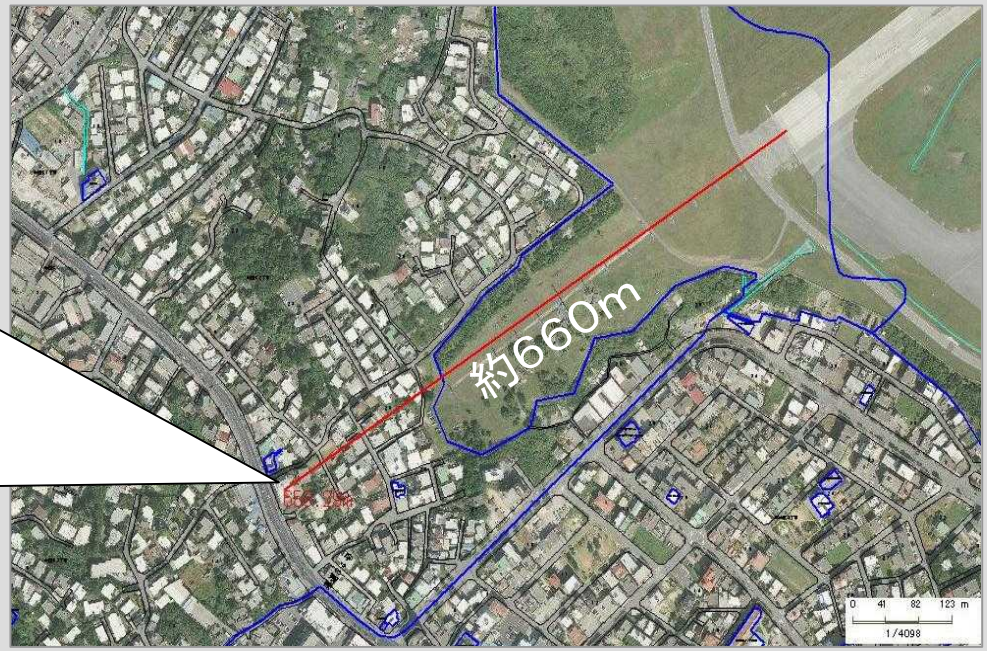
クリアゾーン内には
公共施設・保育所・病院が18箇所、
住宅　約800戸
約３，６００人余の住民が居住している

５．　国内航空法の適用されない普天間飛行場の危険性

普天間飛行場南側「民間鉄塔」は、普天間飛行場（着陸帯）から約６６０ｍ、高さ約３７ｍに位置し、航空法に規定される制限表面の上に出る高さの建造物に該当する。

普天間飛行場南側「民間鉄塔」写真

普天間飛行場南側「民間鉄塔」位置図



普天間飛行場問題の解決に向けて

普天間飛行場では米本国で決して許されない運用が今日も行われています

２０１４年の完成が目標とされる県内移設によらない

グァムを含む海外分散移転による一日も早い返還を求める

8. July, 2008
CH-46E Helicopters fly over our city

～沖縄からグアムへの海兵隊移転と普天間飛行場の危険性除去～

「沖縄からグァムへの海兵隊移転について」

宜野湾市長　伊波　洋一

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「日米同盟：未来のための変革と再編」（２００５年１０月２９日）

「再編実施のための日米のロードマップ」（２００６年５月１日）

「グァム統合軍事開発計画」（２００６年７月）

「沖縄本島中部市町村長　グァム基地視察」（２００７年７月）

国防総省グアム軍事計画報告書（２００８年９月１５日）

米国海兵隊の軍事態勢（２００９年６月）
～米国海兵隊司令官ジェイムズ・コンウェイ大将　委員会証言～

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価
／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「日米同盟：未来のための変革と再編」（２００５年１０月２９日）

●第3海兵機動展開部隊（IIIMEF）司令部はグアム及び他の場所に移転

●残りの在沖縄海兵隊部隊は再編されて海兵機動展開旅団（MEB）に縮小

●約7000名の海兵隊将校及び兵員、並びにその家族の沖縄外への移転

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「再編実施のための日米のロードマップ」（２００６年５月１日）

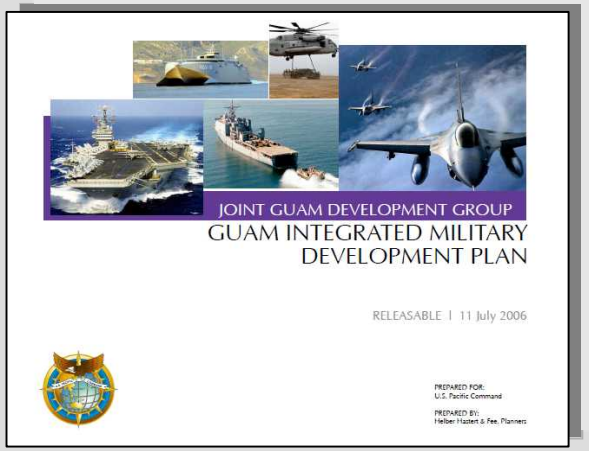
●約8000名の第3海兵機動展開部隊の要員と、その家族約9000名は、部隊の一体性を維持するような形で2014年までに沖縄からグアムに移転する。

●沖縄に残る米海兵隊の兵力は、司令部、陸上、航空、戦闘支援及び基地支援能力といった海兵空地任務部隊の要素から構成される。

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「グァム統合軍事開発計画」（２００６年７月）

●海兵隊航空部隊と伴に移転してくる最大６７機の回転翼機と９機の特別作戦機ＣＶ－２２航空機用格納庫の建設、ヘリコプターのランプスペースと離着陸用パッドの建設」の記述があり、すなわち普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊はグアムに移転するものである。



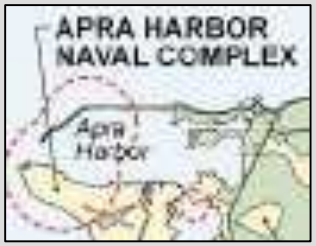
グァム統合軍事開発計画概要①

アンダーセン空軍基地
ノースウエストフィールド

・空軍簡易着陸訓練
・レッドホース
・海兵隊回転翼機遠隔着陸訓練

フィネガヤン

・大規模合同コミュニティー・大規模射撃場



アプラ港
海軍基地

・前方展開艦船
・新支援船プラットフォーム
・原子力空母（暫定）

兵器基地
訓練施設

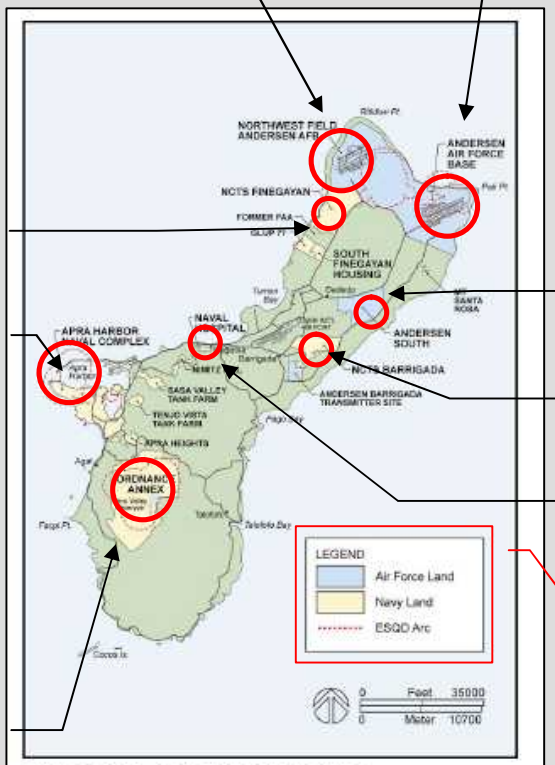


Figure 1-1: GIMDP Study Area

アンダーセン
空軍基地

◆空軍イニシアティブ
・グローバルホーク
・タンカー（空中給油機）
・ローテーション配備戦闘機
・爆撃機
◆ノースランプエリア
・海兵航空戦闘部隊（ＡＣＥ）
・海軍ＨＳＣ-25
・特殊作戦中隊
◆サウスランプエリア
・ＡＣＥ独身兵宿
・ＱＯＬ関連施設
・ターミナルの拡大

アンダーセンサウス訓練施設

バリガダ陸軍旅団司令部大隊施設

海軍病院

(空軍基地)
(海軍基地)
(安全確保ライン)

グァム統合軍事開発計画概要②

（アンダーセン空軍基地）

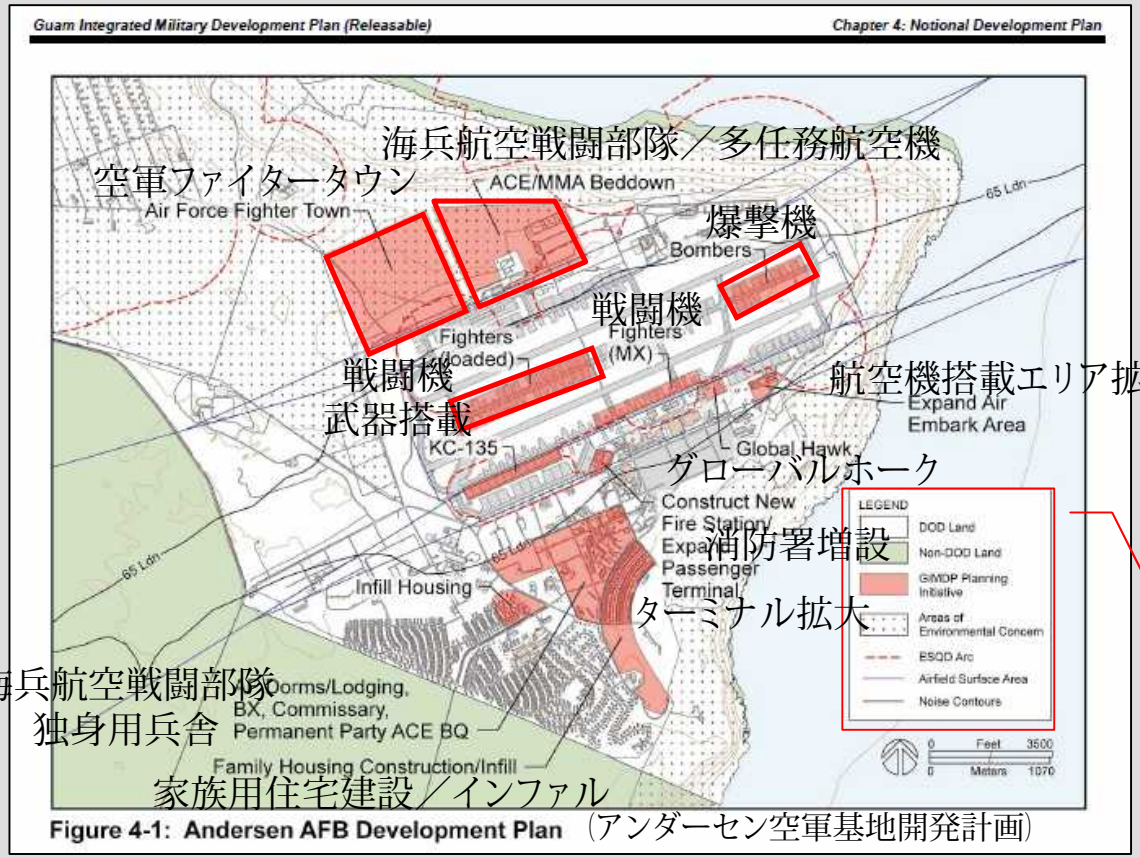


Figure 4-1: Andersen AFB Development Plan （アンダーセン空軍基地開発計画）

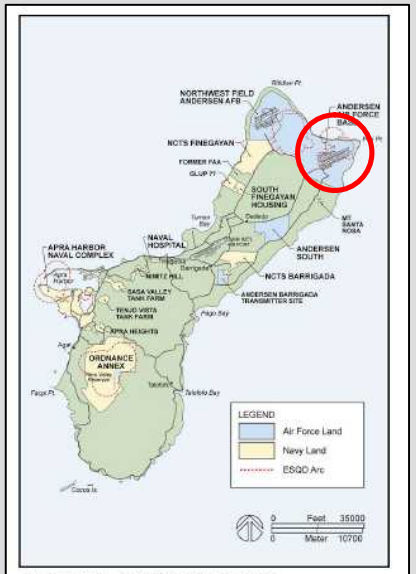


Figure 1-1: GIMDP Study Area

グァム統合軍事開発計画概要③

（アプラ海軍基地）

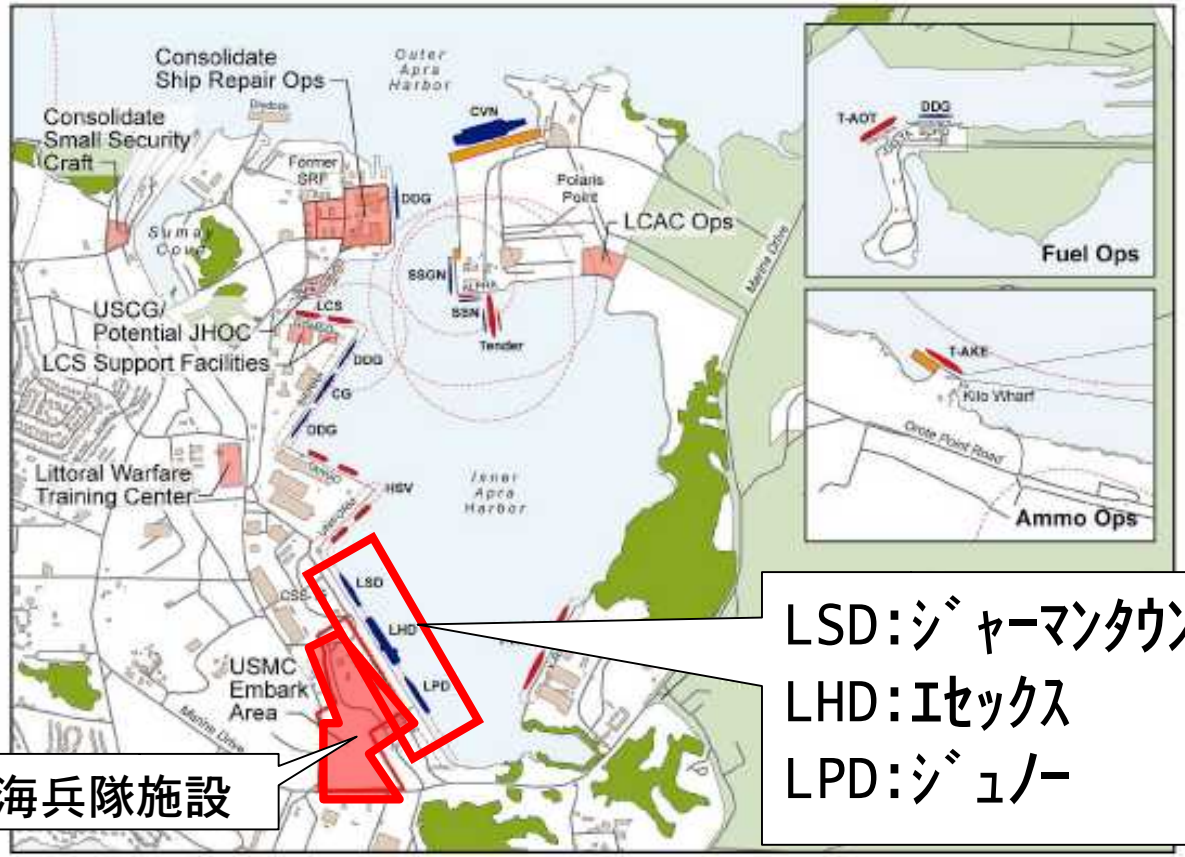


Figure 4-5: Notional Apra Harbor Plan

（アプラ海軍基地開発計画）

LSD：ｼﾞｬｰﾏﾝﾀｳﾝ、 ﾌｫｰﾄﾏｯｸﾍﾝﾘｰ
LHD：ｴｾｯｸｽ
LPD：ｼﾞｭﾉｰ

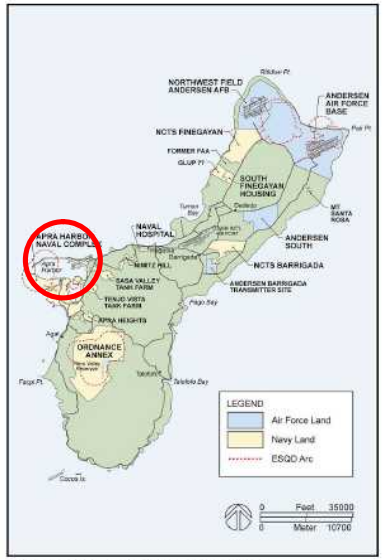


Figure 1-1: GIMDP Study Area

グァム視察
アンダーセン空軍基地（ジョエル・ウエスタ大佐）

アンダーセン空軍基地
海兵隊航空戦闘機能受け入れ予定地

● 海兵隊の航空戦闘機能として海兵隊の場所を整えている。
　海軍ヘリ、航空部隊、どんな機能でも受け入れ可能である。

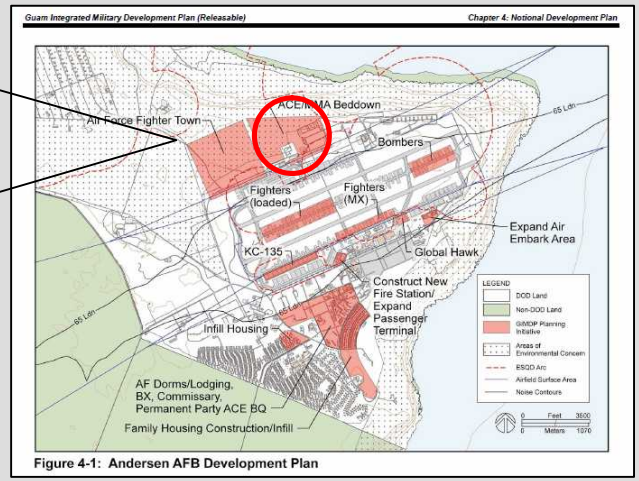


Figure 4-1: Andersen AFB Development Plan

グァム視察
アンダーセン空軍基地(ジョエル・ウエスタ大佐)副司令官

■海兵隊受け入れの場所はアンダーセンに全部入るか、どの部分が来るのかの質問に対して・・・

「６５～７０機の海兵隊航空機が来ることになっているが機数については動いていて確定していない。８，０００人という兵員数も動いている。
　海兵隊航空戦闘部隊１，５００人がアンダーセンには来る予定はあるが、現在はそれぞれの軍で協議している最中である。

アンダーセン空軍基地

２．「なぜ、司令部だけがグァムに行くとされてきたのか。」

「日米同盟：未来のための変革と再編」
（２００５年１０月）

- 第３海兵機動展開部隊(ⅢMEF) 司令部はグアム及び他の場所に移転
- 残りの在沖縄海兵隊部隊は再編されて海兵機動展開旅団(MEB) に縮小
- 約7000名の海兵隊将校及び兵員、並びにその家族の沖縄外への移転

「再編実施のための日米のロードマップ」
（２００６年５月１日）

- 約8000名の第3海兵機動展開部隊の要員と、その家族約9000名は、部隊の一体性を維持するような形で2014年までに沖縄からグアムに移転。
- 沖縄に残る米海兵隊の兵力は、司令部、陸上、航空、戦闘支援及び基地支援能力といった海兵空地任務部隊の要素から構成される。

「事実」については報道されず、検証もない。

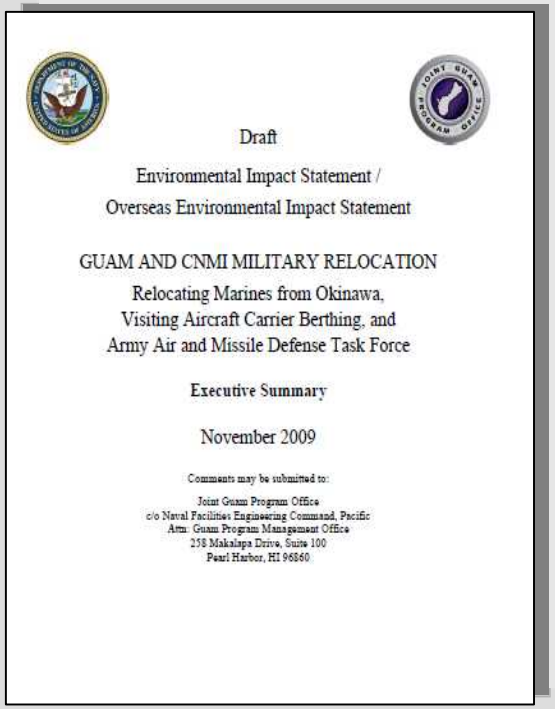
「グァム統合軍事開発計画」
（２００６年７月）

- 日本政府による「正式な決定ではない」として詳細は未定と押し通してきた。
- その結果、現在進行している「事実」は国会議員にも関係者にも国民にも共有されていない。

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

- 沖縄からの海兵隊移転の詳細 が記述
- 海兵隊ヘリ部隊だけでなく、地上戦闘部隊や迫撃砲部隊、補給部隊までグアムに行くことになっている。



Draft

Environmental Impact Statement /
Overseas Environmental Impact Statement

GUAM AND CNMI MILITARY RELOCATION
Relocating Marines from Okinawa,
Visiting Aircraft Carrier Berthing, and
Army Air and Missile Defense Task Force

Executive Summary

November 2009

Comments may be submitted to:

Joint Guam Program Office
c/o Naval Facilities Engineering Command, Pacific
Attn: Guam Program Management Office
258 Makalapa Drive, Suite 100
Pearl Harbor, HI 96860

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

「沖縄からグアム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価/海外環境影響評価書ドラフト」によるとグアムのアンダーセン航空基地のノースランプ地区に海兵隊回転翼部隊としてＭＶ－２２オスプレイ２個中隊２４機を含めＣＨ－５３Ｅ大型ヘリ４機、ＡＨ－１小型攻撃ヘリ４機、ＵＨ－１Ｎ小型多目的ヘリ３機の合計３７機が配備される。
（※ちなみに現在の普天間基地にはヘリ３６機が駐留している。）

要　　素	機　体　数	種　　類
常駐機：回転翼機（ヘリコプター）	１２	ＭＶ－２２（強襲輸送）（ＰＣＳ）
一時配備：回転翼機	１２	ＭＶ－２２（輸送）（オスプレイ）
	３	ＵＨ－１（多目的）（ヒューイ）
	６	ＡＨ－１（攻撃）（コブラ）
	４	ＣＨ－５３Ｅ

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

Executive_Summary ●グァムへの海兵隊移転

総合的地球規模のプレゼンス	基地設置戦略（ＩＧＰＢＳ）	4年ごとの基地見直し（ＱＤＲ）

予測不可能な状況がどこで発生しても柔軟で迅速な対応を可能にする場所に基地設置を目指し、同時に海外の米軍基地を削減しようというものであった。
太平洋地域の米軍再配置と作戦上の再編に関するＱＤＲの勧告に基づき、国防総省は沖縄の海兵隊の適切な移設先を

（１）条約や同盟上の要件
（２）紛争の可能性がある場所への配備時間
（３）活動の自由（規制のかからない基地使用）

の条件を満たす場所に求めた。

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

Table 1.4-3. Global Alternatives Analysis Summary 移転候補地分析の概要

Alternative Site	*Criteria* 判断基準		
	同盟及び契約上の要件	対処（配備）時間	活動の自由
Okinawa (current)[1]		+	–
Hawaii	–	–	+
West Coast U.S (including Alaska)	–	–	+
Marianas (Guam)	+	+	+
Philippines	–	+	–
Thailand	–	+	–
Australia	–	+	–
Singapore	–	+	–
Korea	–	+	–

Notes: + = positive response to criteria; – = negative response to criteria

[1]Scoring is specific to the Marine Corps relocation and is based upon the host nation's international agreements with the U.S. expressing the desire for this action.

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

日米安全保障条約及び以後締結された日米合意は、米軍がアジア・太平洋地域の紛争地域に迅速に対処するよう義務づけている。
この責務と矛盾しない形で、再編合意とロードマップのイニシアティブでは、8000人の海兵隊員とその家族9000人を沖縄からグアムへ2014年までに移転させるよう求めている。

これらの海兵隊をグアムへ移転させることは、太平洋上の米国領土で最前方の配備地へ海兵隊を置くことである。
グアムは海兵隊のプレゼンスを支援できる能力があり、沖縄と比較しても、活動の自由を最大限得られ、配備にかかる時間の増加を最小限に押さえることができる。

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

米軍再編合意とロードマップでは、日本政府は費用分担の枠組みに合意し、海兵隊の沖縄からグアムへの移転に伴う施設建設費として最大60億9000万ドルを負担することになっている。

この費用分担の合意は、日本の防衛と安全保障に対する米国の責務を、（沖縄から移る）グアムの海兵隊が将来も支え続けるということに他ならない。

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。
沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。
普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

第２章　軍事活動計画案とその他の選択肢

２．１．１　活動案概要：グアムの海兵隊基地設置

●約８，６００人の海兵隊員とその家族が沖縄からグアムへ移転する。

●以下の４つの軍事要素の移転が予定されている

第３海兵遠征軍（MEF）の司令部要素（予定隊員数：３０４６人）
第３海兵師団部隊の地上戦闘要素（GCE）（予定隊員数：１１００人）
第１海兵航空団と付随部隊の航空戦闘要素（ACE）（予定隊員数：１８５６人）
第３海兵兵站グループ（MLG）の兵站戦闘要素（LCE）（予定隊員数は２５５０人）

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

● 以下の部隊と大まかな隊員数が、大規模な一時配備の部隊として予定されている。

歩兵大隊　（８００人）
迫撃砲兵隊（１５０人）
航空部隊　（２５０人）
その他　　（８００人）

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「沖縄からグァム及び北マリアナ・テニアンへの海兵隊移転の環境影響評価／海外環境影響評価書ドラフト」（２００９年１１月）

●2．3．1．5 航空訓練

グアムでの海兵隊航空訓練の要件は、２．３－３表の航空機と乗員数を基に評価している。現在の計画では、計２５機の航空機と５０人の乗員がグアムを本拠地とする(based)ことになる。

２．３－３　計画案で投入される航空機と乗員

航空機の種類と機体数	乗員数	航続距離（ｎｍ）	航続時間
ＭＶ－２２（１２機）	２４	８７９	４時間
ＵＨ－１（３機）	６	２２５	約２時間
ＡＨ－１（６機）	１２	３５０	３時間
ＣＨ－５３Ｅ（４機）	８	３６０	３時間（通常燃料タンク）

1．「海兵隊のグアム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグアムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

論拠

Attachment A

Potential Increases in Military Presence

	Military Unit	Unit Type	No. of Personnel	
1	Air Refueling Unit	In-flight refueling		
2	Bomber Force			
	B-52 Bomber Force	*Heavy Bomber*	*Crew of 5 per bomber plus maint. (250-300 active duty) plus 120 Air National Guard accomanying tankers.*	*6 B-52s arrive in Guam 2/04 from 96th on 90 day rotation. 20th Group (250 personnel) replaced 96th in Sept. 2004 on 120 day rotation.*
	B1 Bomber	*Long range, multi-role heavy bomber*	*Crew of 4 per bomber plus maint.*	
	Carrier Air Wing	70 planes		
3	31st Marine Expeditionary Unit		2000 Marines	
4	Surface Ships, Cruise Missile/Attack Subs			
	Destroyer	Guided missle destroyer (eg, USS O'Kane)	30 enlisted	
	Guided missle frigate (eg, USS Rueben James)			
8	Seabee Battalion			
		Assess nuclear, biological, chemical, radiological		
			Additional 22 GUANG personnel	*PDN 11/24/04*
			240 (227 authorized)	
			37	
			13	
			3-5 ships and MEU (2000 soldiers)	
			1082 (USS Essex)	
			628 (USS Juneau)	
			815 (USS Germantown)	
			849 (USS Fort McHenry)	
			16-24 ships and ME Brigade (15000)	
			20 ships and MEForce (25000)	

Red/Italacized/Bold reflects units already on Guam or reported to arrive soon.

31st Marine Expeditionary Unit
（第31海兵遠征部隊）

2000 Marines
（海兵隊員２０００人）

USS Essex （ｴｾｯｸｽ）
USS Juneau （ｼﾞｭﾉｰ）
USS Germantown （ｼﾞｬｰﾏﾝﾀｳﾝ）
USS Fort McHenry （ﾌｫｰﾄﾏｯｸﾍﾝﾘｰ）

１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

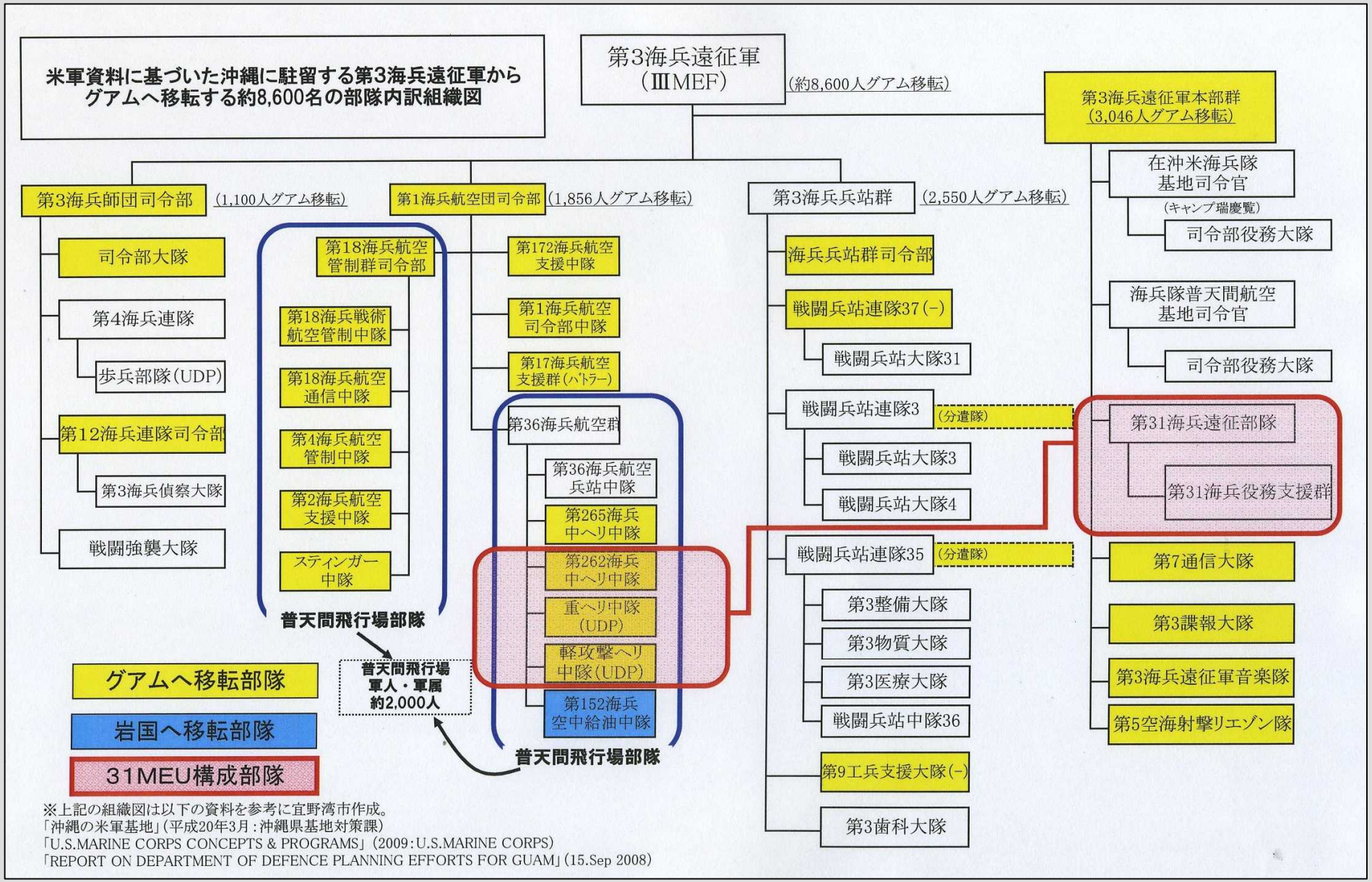
国防総省グアム軍事計画報告書（２００８年９月１５日）

国防総省グアム軍事計画報告書に沖縄からグアムへ移転する部隊名が示された。列挙された１１の普天間基地に関連する海兵隊部隊の中に海兵隊中型ヘリ中隊が入っている

	ACE	
		1st Marine Air Wing HQ
		Marine Wing Headquarters Squadron 1
		Marine Medium Helicopter Squadron
		Marine Air Control Group 18 HQ
		Marine Wing Control Squadron 18
		Marine Air Control Squadron 4
		Marine Air Support Squadron 2
		Marine Tactical Air Control Squadron 18
		Stinger Battery
		Marine Wing Support Group 17 HQ
		Marine Wing Support Squadron Det

Table: 2-2 Additional Force Unit Level Details

Service	Major Element	Unit
USMC	CE	
		7th Communications Bn
		3rd Intelligence Bn
		III MEF Headquarters Group
		III MEF Band
		5th Air Naval Gunfire Liaison Company
		Force Reconnaissance Elements
		Installation Support
	GCE	
		3rd Marine Division HQ
		3rd Marine Division HQ Bn
		12th Marine Artillery Regiment HQ
	ACE	
		1st Marine Air Wing HQ
		Marine Wing Headquarters Squadron 1
		Marine Medium Helicopter Squadron
		Marine Air Control Group 18 HQ
		Marine Wing Control Squadron 18
		Marine Air Control Squadron 4
		Marine Air Support Squadron 2
		Marine Tactical Air Control Squadron 18
		Stinger Battery
		Marine Wing Support Group 17 HQ
		Marine Wing Support Squadron Det



※上記の組織図は以下の資料を参考に宜野湾市作成。
「沖縄の米軍基地」(平成20年3月：沖縄県基地対策課)
「U.S.MARINE CORPS CONCEPTS & PROGRAMS」(2009：U.S.MARINE CORPS)
「REPORT ON DEPARTMENT OF DEFENCE PLANNING EFFORTS FOR GUAM」(15.Sep 2008)

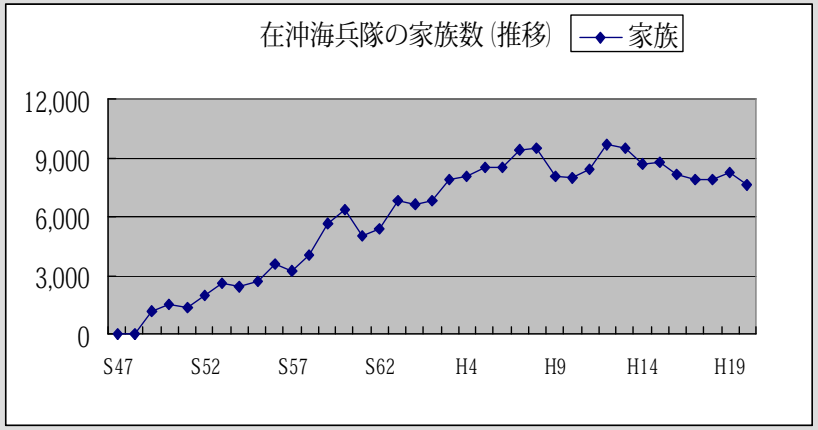
１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

「再編実施のための日米のロードマップ」（２００６年５月１日）

「再編実施のための日米のロードマップ」では

『約８，０００名の第３海兵機動展開部隊の要員とその家族約９，０００名は部隊の一体性を維持するような形で２０１４年までに沖縄からグアムへ移転する。」とされた。

しかしながら、沖縄の海兵隊の家族数が９，０００人を超えたことは復帰後３８年間で４年間しかなく、９，０００人は最大時の人数であり、家族を伴う常駐部隊はすべてグアムに移転すると考えられる。
普天間に配備されている中ヘリ部隊も常駐部隊であり、グアムへ移るものとされる。



１．「海兵隊のグァム移転が司令部中心というのは間違い。沖縄海兵隊の主要な部隊が一体的にグァムへ移転する。普天間飛行場の海兵隊ヘリ部隊も含まれる。」

米国海兵隊の軍事態勢（２００９年６月４日）
～米国海兵隊司令官ジェイムズ・コンウェイ大将　報告書～

２００９年６月４日付の米海兵隊総司令官では、

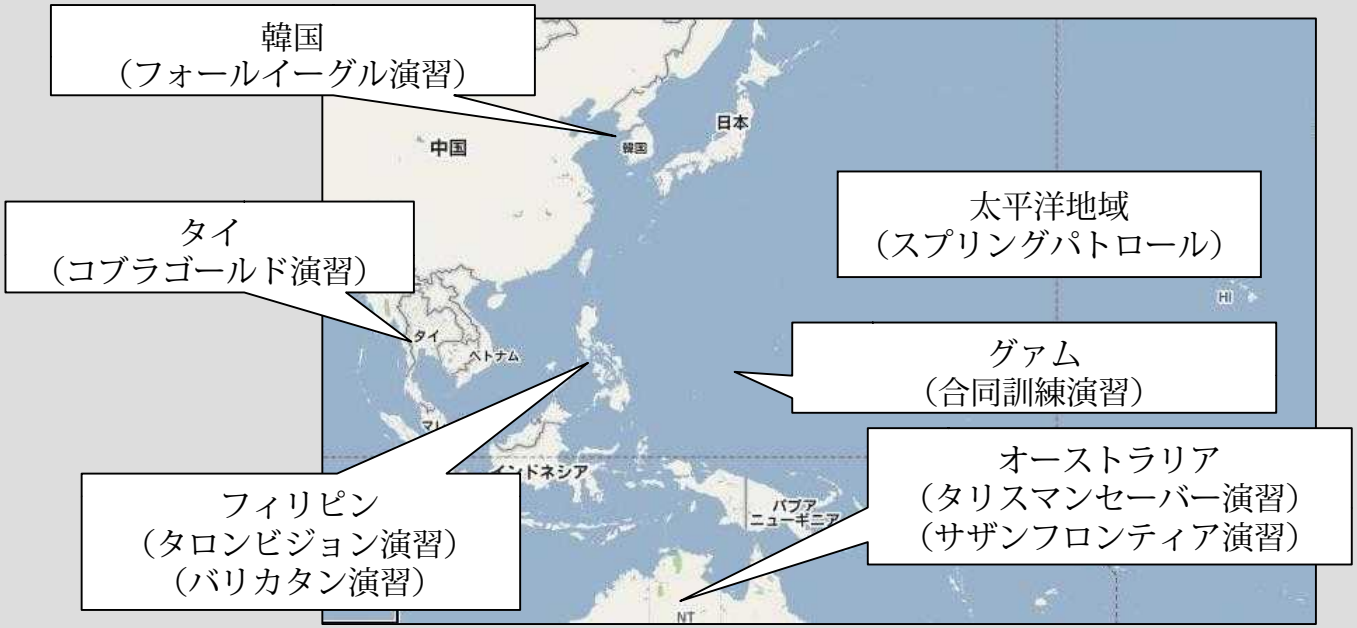
「訓練や施設の要件を調整し、適切に計画・実施されれば、グアムへの移転は即応能力のある前方態勢を備えた海兵隊戦力を実現し、今後５０年間にわたって太平洋における米軍の国益に貢献する。」としている。

General James T. Conway
Commandant of the Marine Corps
THE SENATE ARMED SERVICES COMMITTEE ON THE POSTURE OF THE UNITED STATES MARINE CORPS
4 JUNE 2009

Planned and executed properly, this relocation to Guam will result in Marine forces that are combat ready, forward postured, and value-added to U.S. interests in the Pacific for the next fifty years.

２．「海兵遠征部隊３１MEUが沖縄にいないと台湾や韓国に１日で展開できないので抑止力の致命傷になる」との主張は国民をだます嘘である。

● ３１MUEは、１年の半分は沖縄にいない。西太平洋の同盟国での演習に参加している。



２．「海兵遠征部隊３１MEUが沖縄にいないと台湾や韓国に１日で展開できないので抑止力の致命傷になる」との主張は国民をだます嘘である。

- ３１MUEは、１年の半分は沖縄にいない。西太平洋の同盟国での演習に参加している。

- １月から５月の間においては約３ヶ月は、海外演習・訓練に出ていた。９月下旬から１１月下旬までフィリピンに出ていた。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
06年	1/23～2/8 グァム訓練	2/20～3/5 フィリピン訓練（バリカタン）	3/25～4/7 韓国訓練（フォールイーグル）		5/15～6/7 タイ訓練（コブラゴールド）				9/4～9/29 オーストラリア（サザンフロンティア）	10/11～11/28 フィリピン訓練（タロンビジョン）		

２．「海兵遠征部隊３１MEUが沖縄にいないと台湾や韓国に１日で展開できないので抑止力の致命傷になる」との主張は国民をだます嘘である。

- ３１MUEは、１年の半分は沖縄にいない。西太平洋の同盟国での演習に参加している。
- １月から５月の間においては約３ヶ月は、海外演習・訓練に出ていた。９月下旬から１１月下旬までフィリピンに出ていた。
- ３１MUEの重要な役割は、西太平洋での米国の同盟国との安全保障条約を実証するために、合同演習や合同訓練を行うことである。

※海兵隊によると、３１MUEは例年、韓国やフィリピン、タイなどの各軍との演習や訓練に参加。隊員たちは佐世保配備の揚陸艦に乗り、１年の半分程度は沖縄を離れて活動しているという。
（2009/0812 四国新聞社）

- ２０１０QDRはグアムを西太平洋地域における安全保障活動のハブとする。

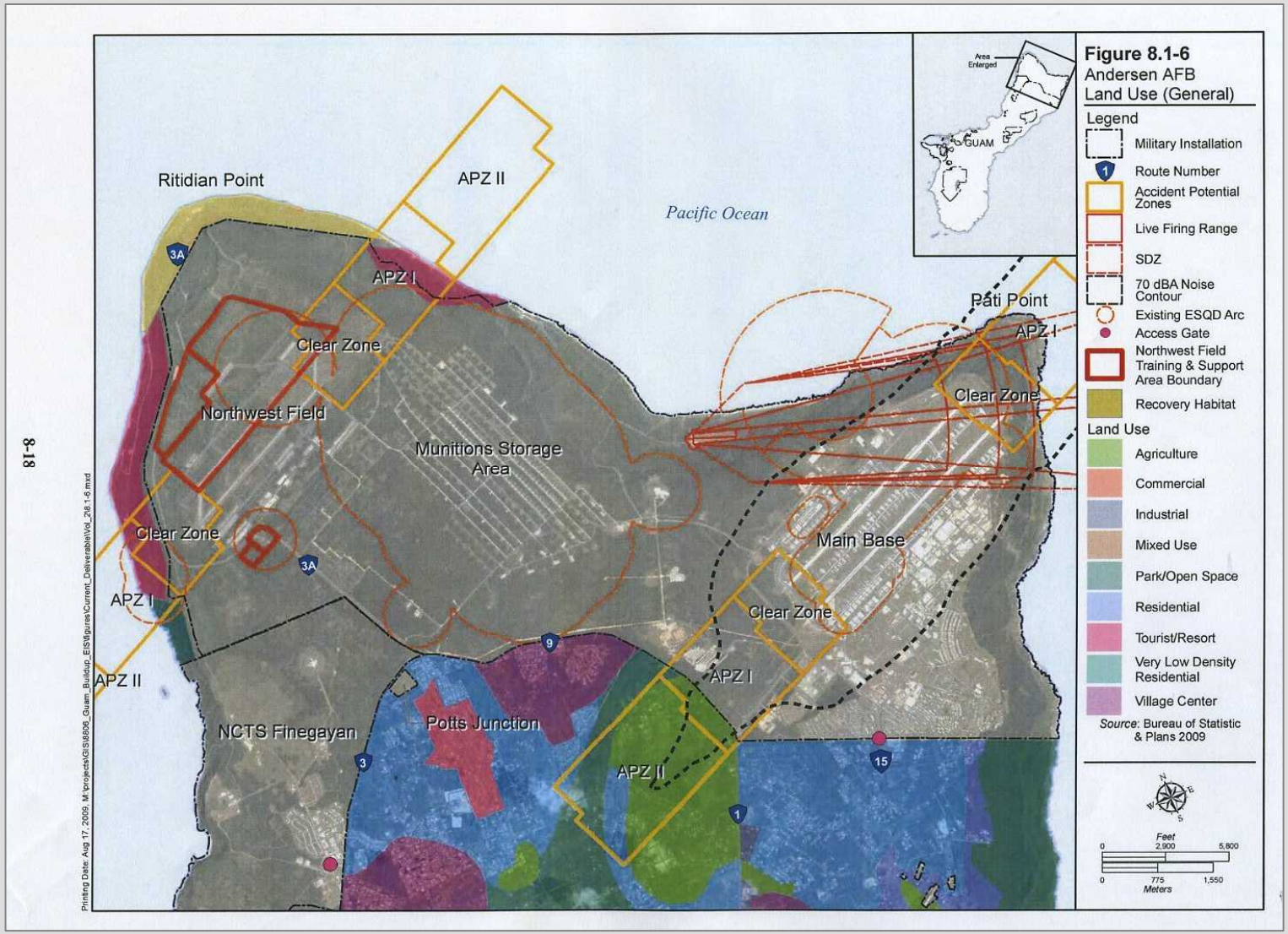


Figure 8.1-6
Andersen AFB
Land Use (General)
Legend
Military Installation
Route Number
Accident Potential Zones
Live Firing Range
SDZ
70 dBA Noise Contour
Existing ESQD Arc
Access Gate
Northwest Field Training & Support Area Boundary
Recovery Habitat
Land Use
Agriculture
Commercial
Industrial
Mixed Use
Park/Open Space
Residential
Tourist/Resort
Very Low Density Residential
Village Center
Source: Bureau of Statistic & Plans 2009
Area Enlarged
GUAM
Ritidian Point
APZ II
Pacific Ocean
APZ I
Clear Zone
Northwest Field
Munitions Storage Area
Pati Point
Main Base
NCTS Finegayan
Potts Junction
Feet
0
2,900
5,800
775
1,550
Meters
8-18

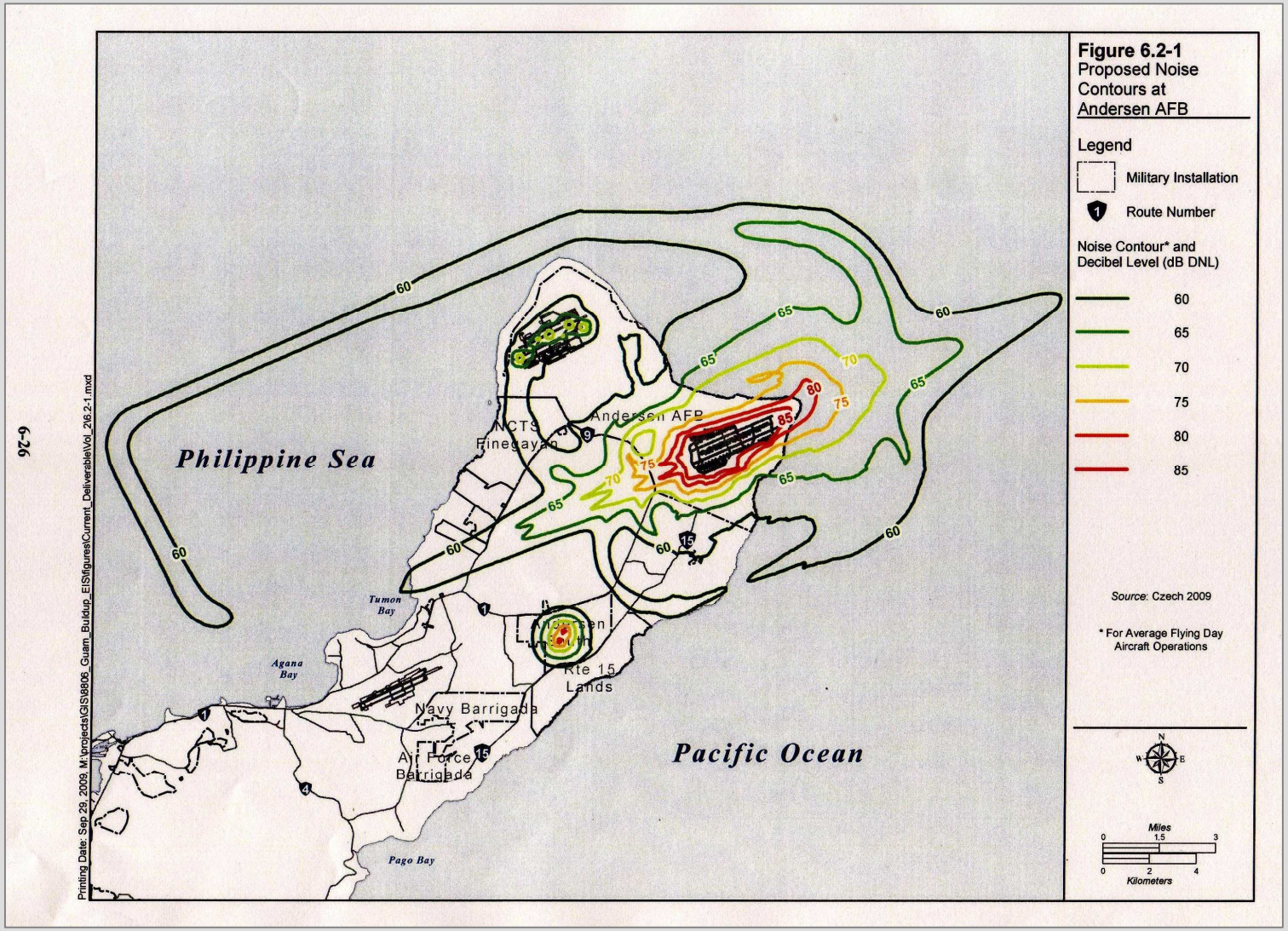


Figure 6.2-1
Proposed Noise Contours at Andersen AFB
Legend
Military Installation
Route Number
Noise Contour* and Decibel Level (dB DNL)
60
65
70
75
80
85
Source: Czech 2009
* For Average Flying Day Aircraft Operations
Philippine Sea
Pacific Ocean
Andersen AFB
NCTS Finegayan
Tumon Bay
Agana Bay
Pago Bay
Navy Barrigada
Air Force Barrigada
Rte 15 Lands
Miles
Kilometers
Printing Date: Sep 29, 2009, M:\projects\GIS\8806_Guam_Buildup_EIS\figures\Current_Deliverable\Vol_2\6.2-1.mxd

6-26

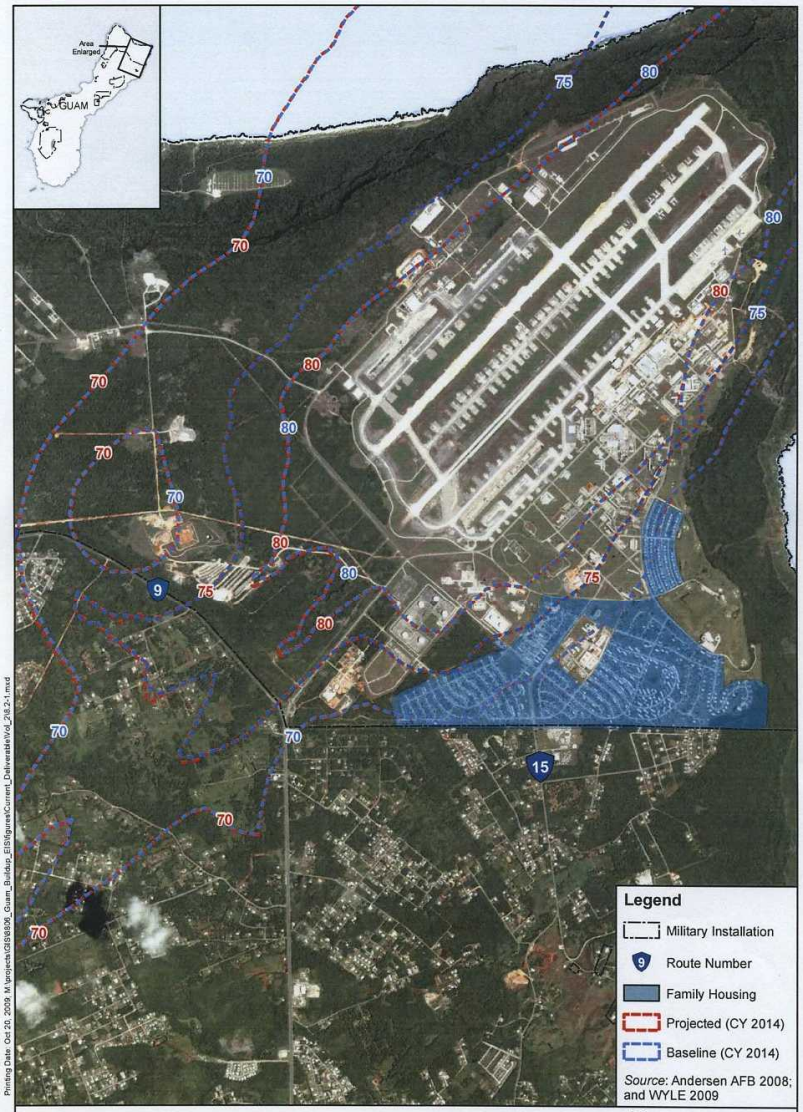
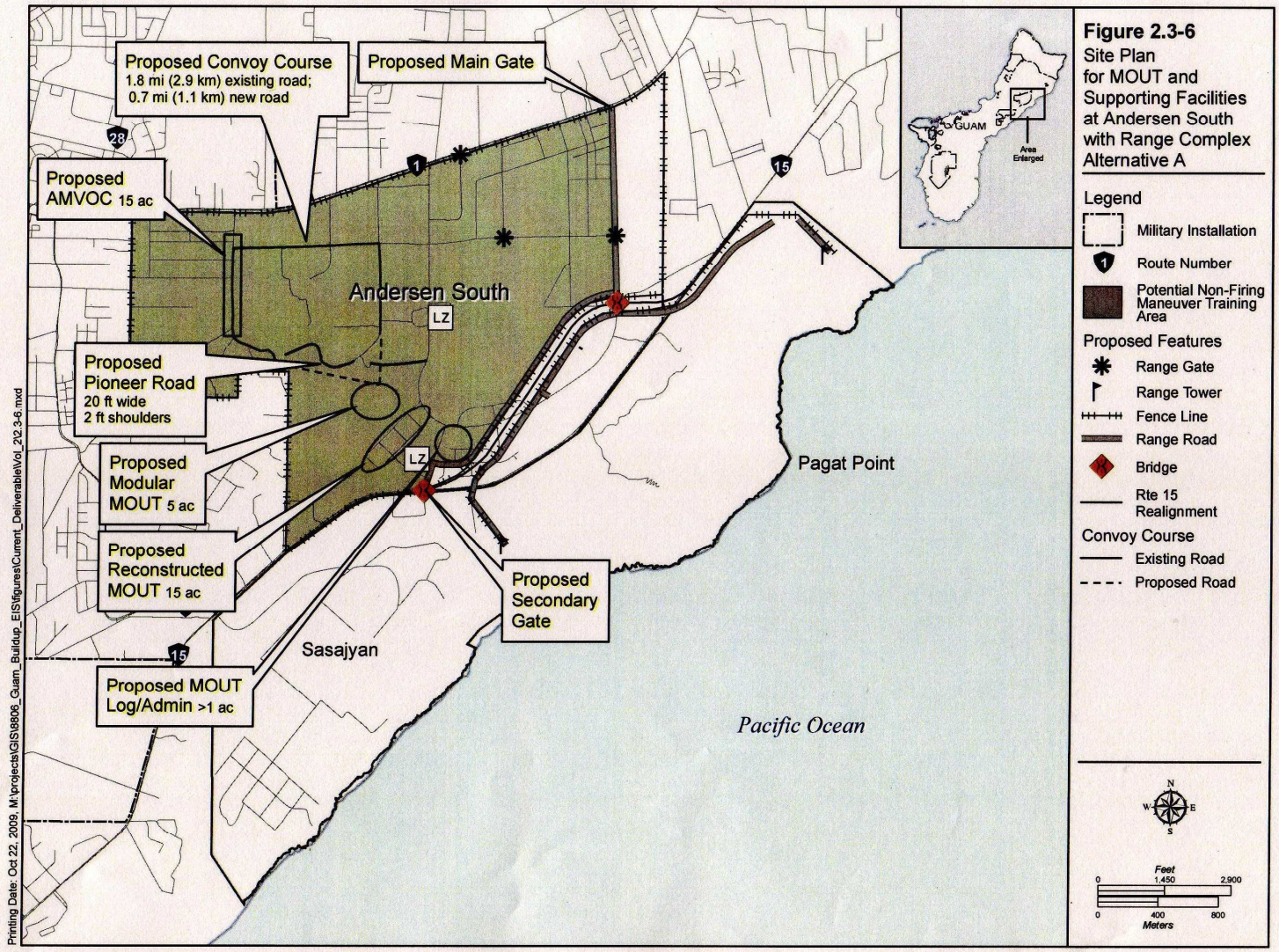


Figure 8.2-1
70 dBA Noise Contours

8-57


Proposed Convoy Course
1.8 mi (2.9 km) existing road;
0.7 mi (1.1 km) new road
Proposed Main Gate
Proposed AMVOC 15 ac
Andersen South
LZ
Proposed Pioneer Road
20 ft wide
2 ft shoulders
Proposed Modular MOUT 5 ac
Proposed Reconstructed MOUT 15 ac
Proposed Secondary Gate
Proposed MOUT Log/Admin >1 ac
Sasajyan
Pagat Point
Pacific Ocean
GUAM
Area Enlarged
Figure 2.3-6
Site Plan for MOUT and Supporting Facilities at Andersen South with Range Complex Alternative A
Legend
Military Installation
Route Number
Potential Non-Firing Maneuver Training Area
Proposed Features
Range Gate
Range Tower
Fence Line
Range Road
Bridge
Rte 15 Realignment
Convoy Course
Existing Road
Proposed Road
Feet
0
1,450
2,900
Meters
0
400
800
Printing Date: Oct 22, 2009, M:\projects\GIS\8806_Guam_Buildup_EIS\figures\Current_Deliverable\Vol_2\2.3-6.mxd
2-46

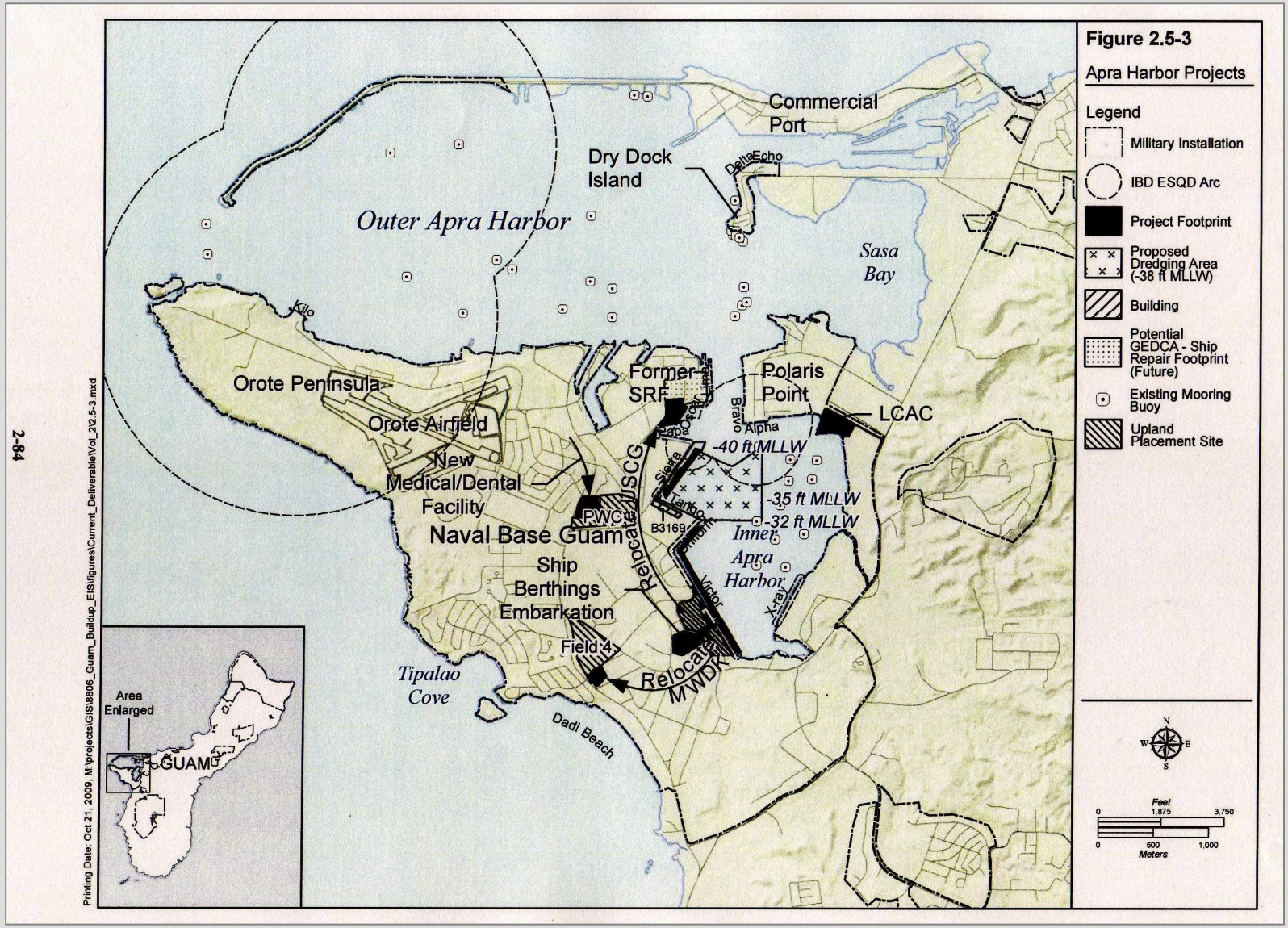
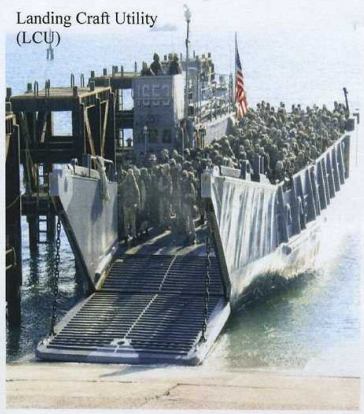


Figure 2.5-3
Apra Harbor Projects
Legend
Military Installation
IBD ESQD Arc
Project Footprint
Proposed Dredging Area (-38 ft MLLW)
Building
Potential GEDCA - Ship Repair Footprint (Future)
Existing Mooring Buoy
Upland Placement Site
Commercial Port
Dry Dock Island
Delta
Echo
Outer Apra Harbor
Sasa Bay
Kilo
Orote Peninsula
Orote Airfield
New Medical/Dental Facility
Former SRF
Papa
Polaris Point
Bravo
Alpha
LCAC
-40 ft MLLW
-35 ft MLLW
-32 ft MLLW
Sierra
Harbor
B3169
Inner Apra Harbor
PWC
Naval Base Guam
Relocate USCG
Ship Berthings Embarkation
Victor
X-ray
Field 4
Relocate MWDR
Tipalao Cove
Dadi Beach
Area Enlarged
GUAM
Feet
0
1,875
3,750
500
1,000
Meters
N
S
E
W
Printing Date: Oct 21, 2009, M:\projects\GIS\8806_Guam_Buildup_EIS\figures\Current_Deliverable\Vol_2\2-5-3.mxd
2-84

Table 2.5-1. Amphibious Task Force Ships and Based Amphibious Vehicles and Boats

Proposed Vessel	*Quantity*	*Permanent/ Visiting*	*Total Wharf Length/ Requirement (ft)*	*Draft (ft)*
Ships Carrying Amphibious Vehicles				
LHD	1	Visiting	1,044	28
LSD	1	Visiting	710	20
LPD	1	Visiting	669	23
Amphibious Vehicles				
LCAC	4	Visiting (transported on ships)	Not applicable	2.8 ft (full stop, no cushion) 0 ft (navigation) 1-20 inches of water depression @ 18 knots
LCU	4	Visiting (transported on ships)	Not applicable	7 (fully loaded)
AAV- predominantly a land vehicle	Varies	Visiting (transported on ships)	Not applicable	6
AAV	14	Permanent	Not applicable	6
Reconnaissance Boats				
RHIB/CRRC	2/8	Permanent	Not applicable	Nominal
Escort Combatants				
Guided Missile Cruiser (CG-47)	2	Visiting	1,335	34
Guided Missile Destroyer (DDG)	2	Visiting	1,210	33

Legend: CRRC = combat rubber raiding craft; LCU = landing craft utility; RHIB = rigid hull inflatable boat.



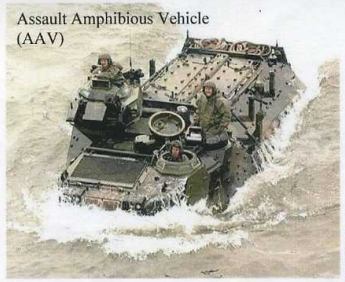


Figure 2.5-2
Amphibious Ships

2-81

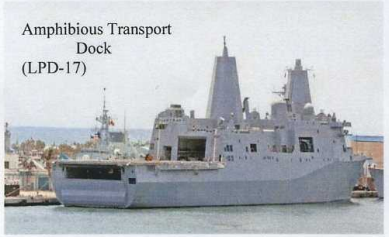


Figure 2.5-1
Ships

2-80

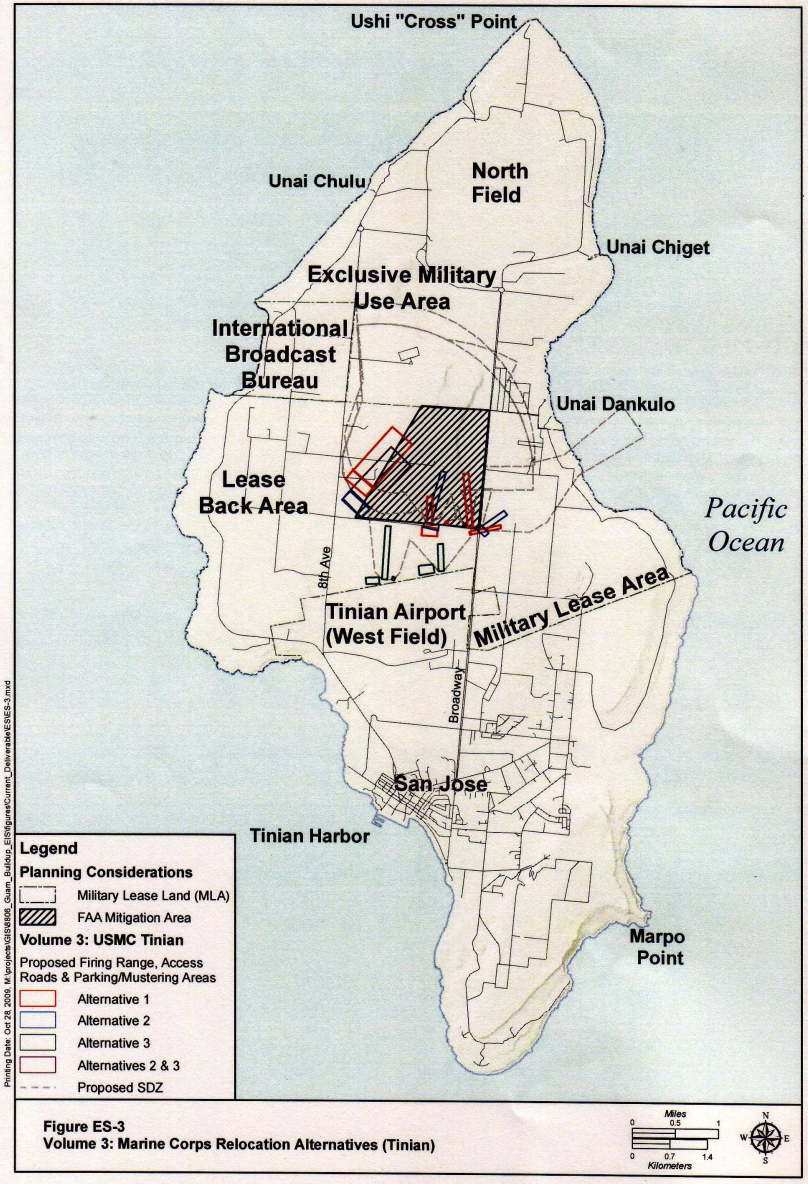


Figure ES-3
Volume 3: Marine Corps Relocation Alternatives (Tinian)

ES-14

【出典】　沖縄の米軍基地　平成２０年３月　沖縄県基地対策課発刊

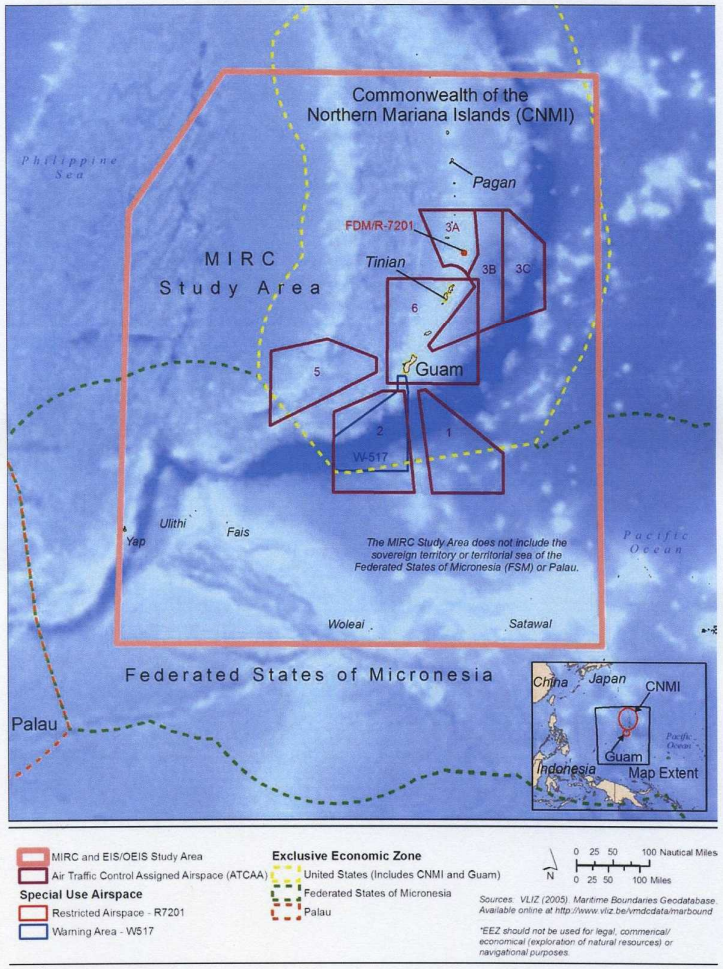
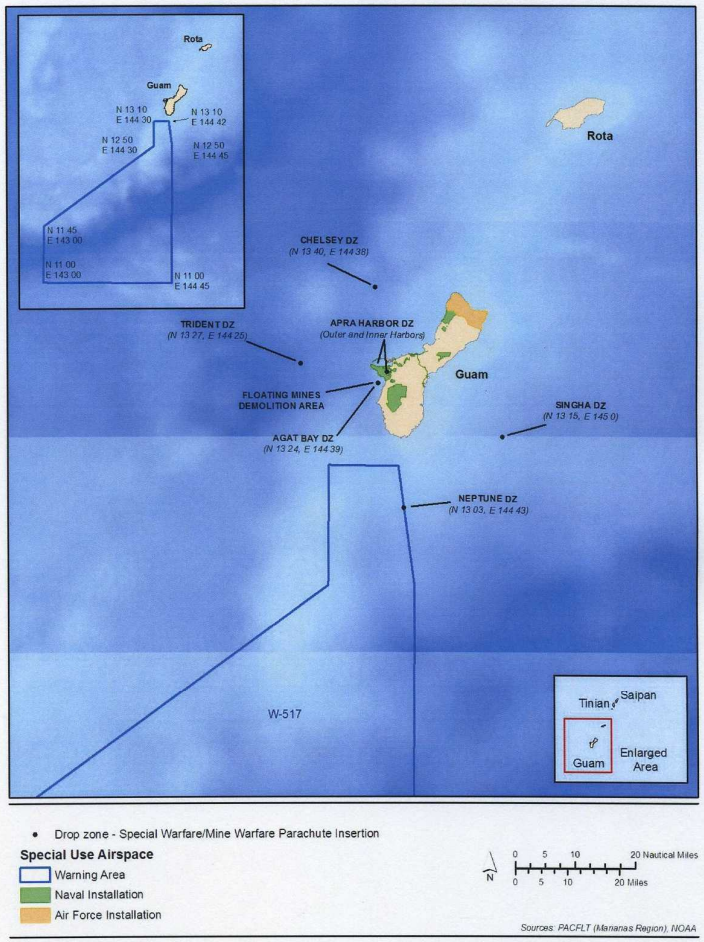


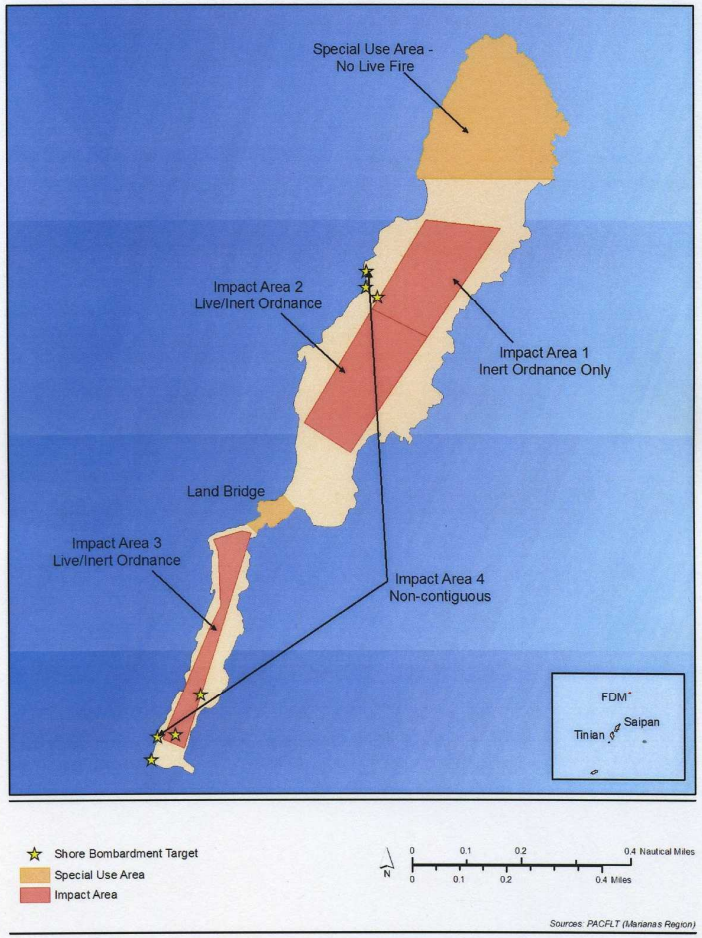
Figure ES-1: Mariana Islands Range Complex and EIS/OEIS Study Area



Source: ManTech-SRS

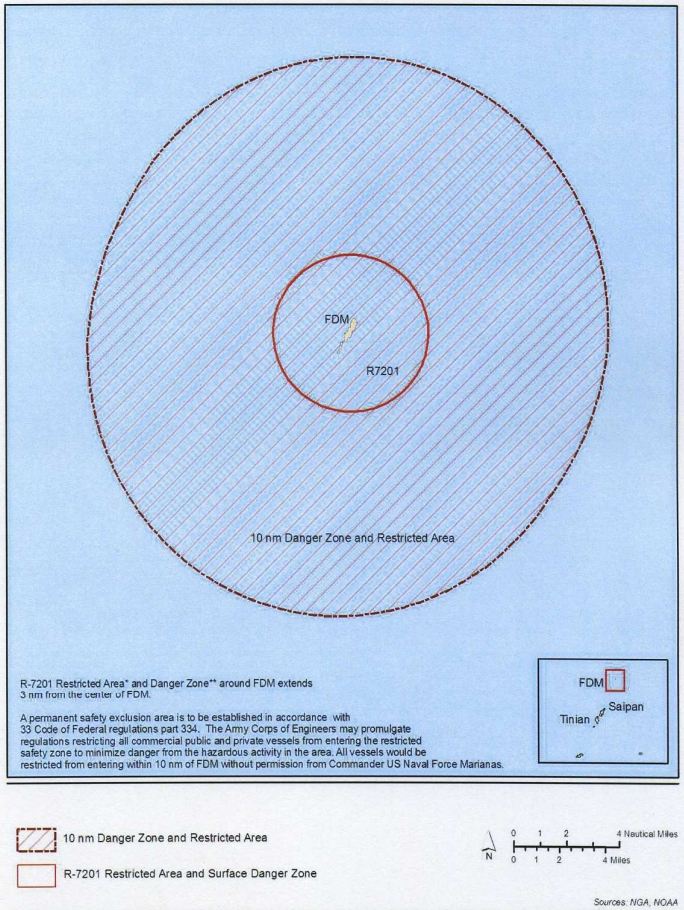
Figure ES-2: W-517 Aerial Training Area

【出典】 MARIANA ISLANDS RANGE COMPLEX ENVIRONMENTAL IMPACT STATEMENT/OVERSEAS ENVIRONMENTAL IMPACTSTATEMENT Volume 1 of 2 January 2009 Draft



Source: ManTech-SRS

Figure ES-3: Farallon de Medinilla (FDM)



* In accordance with FAA Order JO 7400.8P: R-7201 center point at lat. 6°01'04"N., long. 146°04'39"E., altitude from surface to FL600

** Danger Zone in accordance with COMNAVMARINST 3502.1 FDM Range User Manual.

Figure ES-4: Farallon de Medinilla (FDM) 10 nm Safety Restricted Area and Danger Zone

【出典】 MARIANA ISLANDS RANGE COMPLEX ENVIRONMENTAL IMPACT STATEMENT/OVERSEAS ENVIRONMENTAL IMPACTSTATEMENT Volume 1 of 2 January 2009 Draft